

令和2年度 さいたま市立岩槻小学校 学校関係者評価書

さいたま市立岩槻小学校

学校関係者評価委員長 新井 久夫



1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数
8名(学校評議員8名)
- (2) 実施回数
2回(誌面会議を含む)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

コロナ禍の中、感染症対策を徹底しながら、学校教育目標の具現化に向けて、学校教育が円滑に実施され、児童も充実した学校生活を送っている。保護者も学校の教育活動を理解し、協力的である。今後も、充実した学校教育を推進するため、教職員の努力と保護者の協力を期待したい。また、教育環境もよく整備されているが、より一層の整備を願っている。

(1) 安全・安心な学校生活

- ・学校は、子どもにとっても保護者にとっても、楽しく安全に過ごせる場所であってほしい。それには学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守っていく必要がある。
- ・コロナ禍の中、感染症に対する正しい知識を持ち、お互いに「感染しない・させない」ための行動を児童一人ひとりがとることができるようにしていく必要がある。

(2) 学習指導・生活指導

- ・全体的に落ち着いている学級・児童が多い。学校の掲示物なども充実しており、児童のがんばりが目で見えてわかりやすい。
- ・マスクをした生活の中ではあるが、目を見てあいさつしてくれる子が多い。また、名前を呼びながらあいさつする子も増えている。
- ・パフォーマンス大会や算数問題コーナーの設置など、児童が主体的に取り組むことができる教育活動が展開されている。児童の実態に応じた教育の充実が、保護者の学校への信頼につながっている。

(3) 学校と保護者の連携による教育の推進

- ・保護者は学校教育に対して、とても協力的であり理解がある。また、先生方一人ひとりも児童・保護者に明るく接してくれ、学校全体が温かく感じる。
- ・中学に行くとな登校生徒が増える傾向がある。小学校段階で、登校を渋る児童や悩みを抱える保護者への対応として、教育相談体制のさらなる充実を図ってほしい。
- ・ニュースなどで取り上げられる事件や、身近な地域での不審者情報などを多く聞くようになり、防犯についての教育の重要度が増していると考え。セキュリティを万全にしても犯罪に巻き込まれることは往々にしてある。児童の防犯意識を高める教育を家庭地域とともに進めていくとよい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- (1) 児童が安心・安全に学校生活を送ることは、保護者の願いである。感染症予防対策を充実すること、月1回の安全点検を確実にすること等のハード面での対応と、児童自身が安全に過ごすことができるよう、安全指導・保健指導の徹底などのソフト面での対応と、両面をバランスよく進めていく。
- (2) 「わかる」授業を推進するとともに、児童に自信をつけさせるために、児童の長所や進歩、頑張りなどを児童同士が認め合い、自分への肯定的な気付きを促す工夫を行う。
- (3) 児童の学力向上や望ましい生活習慣の定着に向け、学校と家庭がより連携できるように工夫する。また、GIGAスクール構想のもと、タブレットコンピュータを活用した教育指導の工夫を行う。
- (4) 「在校時間短縮デー」や「会議の精選」など業務改善を図り、限られた時間の中で、授業改善のための時間や児童に接する時間を確保できるよう勤務環境を整備する。
- (5) 関係機関との連携を密にし、教育相談体制の充実・強化を図り、児童や保護者からの相談やメールに適切に対応できるようにする。

さいたま市立岩槻小学校長 吉野 寿一

